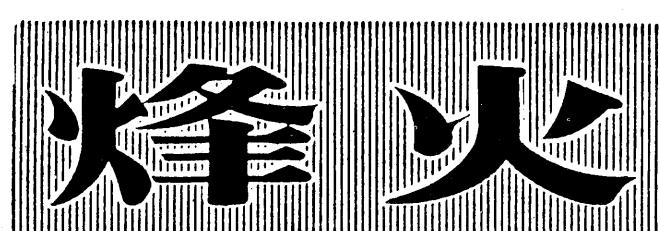


☆帝国主義の侵略反革命、社会帝国主義の武装反革命を粉碎し、世界革命戦争一世界プロ独を組織する世界単一党を国際階級闘争の最前線に組織せよ！

1983年
1月1日
第347号
編集発行人 高木一夫
一部 200円



共産主義者同盟（全国委員会）

- 大阪戦旗社 大阪市大淀区本庄東2丁目2の31
とみやビル15号 Tel(06)371-3706
- 郵便振替 大阪3-63333 高木一夫
- 銀行口座 第一勧銀 515-1058150 高木一夫
- 東京戦旗社 東京中央郵便局 私書箱1114号



社会主義と前衛党建設に勝利せよ

現下の情勢は、戦後一度目の革命的情勢の客観的到來を告げている。

全世界をおおう資本主義の危機と大衆の生活苦の増大が、帝国主義列強で慢性化している。帝国主義ブルジョアジーはみずから危機突破を戦争とファシズムの道にもとめ、帝国主義足下の人民はこれにたいする危機感を広範に表明し、失業や生活不安にたいする闘争も激発している。第三世界、すなわち新植民地主義支配下の諸国では深まる経済危機を背景に、帝国主義とそれと結合した軍事独裁政権にたいする反帝民族解放闘争が高揚している。さらにまたソ連圏においても、社会帝国主義の支配の網を食い破るたたかいが生みだされている。

帝国主義・社会帝国主義は、これらの人民大衆のたたかいで、明確な意識された階級闘争として発展しないよう分断し、帝国主義戦争準備をもつて鎮圧・解体せんとしている。帝国主義・社会帝国主義と全世界のプロレタリアートの階級攻防が、八〇年代中期にむけてますます激化していくのは不可避である。

この攻防に勝利できるのは国際主義を鮮明にした部分のみであり、いまこそ要求される国際主義の旗を、高々

とかげなければならない。それは自国の階級闘争を世界革命の一環として推進する立場であり、その世界的司令部たる新たな世界党を建設する立場であり、これにむけてソ連を筆頭とした社会帝国主義との国際党派闘争に勝利しなくことである。このたたかいと結合しないかぎり、一切の階級闘争は帝国主義・社会帝国主義の各個解体攻撃にかちぬくことはできない。なおかつ戦後二度目の革命的情勢の到来は、とりわけ帝国主義本国のプロレタリアートに、世界プロレタリア独裁と世界党建設の先陣を切ることを不可欠の義務として要求していることを忘れてはならない。かかる国際主義的任務と結びつけて、自國帝国主義打倒を当面の環として自國階級闘争の発展がかちとられなければならない。

八三年。わが日本プロレタリアートは開始された階級流動を、社民・スターリン主義社帝潮流の小ブル和平主義・改良主義の影響下から解き放ち、プロレタリアートの革命的政治闘争を組織し、この流動のただなかに党とタリアートに、世界プロレタリア独裁と世界党建設の先陣を切ることを不可欠の義務として要求していることを忘れてはならない。かかる国際主義的任務と結びつけて、統一戦線、階級的労働運動の陣型をしっかりと打ち固めていかねばならない。

一、国際階級闘争の抑圧者・社帝潮流

昨八二年においては、帝国主義列強下で経済危機が一段と進行し、またそれと連動した政府危機があいついた。

資本主義の危機と

社民の破産

ドイツにおける社民党から保守への政権交代、またデンマークでも同様の交代があり、逆にスウェーデン、スペインでは社民政権が生まれた。これらは共通して経済不況、失業の増大を背景とし、これにたいする大衆の不满を物語るものである。

すでに八二年をつうじて先進帝国主義諸国において失業者は三〇〇〇万人を突破したといわれ、米、EC諸国では失業率が一〇%をきなみ越えている。現下の経済不況は一過性のものではなく構造的なものであり、不況、失業とインフレが同時進行している点において、三〇年代危機以降の国家財政政策による不況対策をまったく無効にしてしまっているのである。そしてこのことが、従来の帝国主

義ブルジョアジーと社民によるプロレタリアート支配の物質的基盤を動搖させている。ブルジョアジーはこの支配の危機の突破を、いつせいに搾取・収奪の強化、軍備増強と国内政治反動にとめ、これにたいする大衆の不満を、帝国主義的抗争の勝利と新植民地支配の強化へと集約せんと必死に策動しているのである。そしてそれはまた共通して「下層」の部分へのむきだしの暴力支配と、組織された労働者部隊への排外主義のもとへの組織化として進行している。

西ドイツにおいては社民党政権がこの役割をになってきた。社民党はブルジョアジーとの連合によって政権を掌握し、一連の「社会改革」「福祉国家」政策を打ちだし、福祉予算と労資協調によって労働者を体制内につなぎとめてきた。労働者大衆は巨大な労組もとに組織され、「労働者の経営参加を保証する」と銘打った共同決定法によってあざむかれ、資本主義の延命をなわされてきた。しかし経済危機のなかでの財政赤字、インフレ、

社民の道歩む

社帝派共産党

かかる社民党的破産にたいし先進帝国主義の共産党は、口先で「社会主義」を唱え

つつ、実際は社民のあとを追って資本主義の救済者として登場している。

彼らは第一に自国帝国主義を帝国主義としてみていらない。自国帝国主義を資本主義一般であると規定し、自国帝国主義の打倒をかげず労働者大衆に自国帝国主義を免罪するよう呼びかけているのである。またしたがつて帝国主義戦争の危機を否定し、それは米帝による対ソ核戦争の危機であり、それを支持している自国の政府を米帝から引き離す圧力運動として反戦反核闘争を歪曲し、自国帝国主義との対決の道から労働者人民をそらそうとするのである。

彼らは第二に反帝民族解放闘争を無視し、実質的には敵対している。そのうえで恥ずかし気もなくたとえばイタリア共産党は次のよううにのべているのだ。「植民地体制の崩壊によってヨーロッパ帝国主義に隸属していた諸国とヨーロッパ自身の政治的関係と貿易上の権益はくつがえされた」と帝国主義と植民地の関係を否定し、また「新植民地主義と手を切り、貧困・飢餓を克服しうる自立した経済建設に協力する」といいつつ、実は自国を帝国主義を擁護しているのである。実際はかつても現も帝国主義的搾取と収奪によって、貧困と飢餓とが慢性化しているにもかかわらずである。

彼らは第三に小ブル平和主義とブルジョア民主主義を労働者階級に注入し、のみならずそれを社会主義達成の手段としていつわっている。西欧の共産党は例外なく次のように叫んでいる。「緊張緩和と軍縮により軍事ブロックを解消しよう」「米帝＝レーガン政権の軍事緊張政策と内政干渉に反対しよう」「軍備を削って失業解消にまわせ」と。かくて彼らは資本主義、帝国主義のもとで恒久平和がありうると人民をあざむいているのである。また「反動政策によって危機を乗り切ろうとするブルジョアジーの一部を孤立させ、広範な統一戦線をつくろう」「そのためにこの危機を克服する民主的代案を示そう」と主張することによって、ブルジョア民主主義とブルジョア議会のもとに、すなわち「民主的ブルジョアジー」のもとに労働者人民を売りわたさんとするのである。

第四にこれらは彼らのいわゆる「ユーロ・コミュニズム」路線の帰結である。彼らは①ソ連と他の社会主義国との自主独立関係の承認、社会主義への複数の道の承認②民主主義をつうじた社会主義、プロレタリア独裁の放棄、ブルジョア議会多数派をつうじた社会主義③所有における国有と私的所有の並存、企業における自主管理——これらを共通の旗印としてスターリン主義を超える新しい社会主義を超えるどころかその枠内にあり、各国帝国主義とゆきしたスターリン主義の新たな装い

をまとったものであるというべきである。スターリン主義とは、ロシア革命と世界革命のいつたんの後退を右翼的に固定化し、それを

「一国社会主義論」へと路線化し、各国革命と國際共産主義運動をソ連国家利益のもとに解体した右翼日和見主義であり、社会主義を

国家により収納された高度な生産力がもたらす物質的結果であるとする経済主義であるからである。ユーロ・コミュニズムはこれと同根であり、ただそれを各国帝国主義の利害と調和せながららぬこうとするだけの相違しかない。

これは社民の道である。西欧共産党は社民と同一の土俵のうえにあって、それをより体系化しようとするだけである。自国帝国主義の権益を擁護し、自国帝国主義の危機の救済を唱えるものであり、この行きつく先は、第一次大戦、三〇年代がそうであったように、帝国主義間強盗的抗争と戦争の道である。また現実的にも西欧共産党は各國ごとに各國ごとの社会主義への道を定め、各國帝国主義の利害と融合し、その結果ユーロ・コミュニズムは分解してしまったのである。

国際主義の旗

高くかかげよう

先進帝国主義諸国共産党に共通なこの路線こそ、現下の戦争前夜におけるプロレタリアートの敗北を確実に準備するものであり、われわれは帝国主義とのたたかいと結びつけてこれを死闘に勝利しなければならない。なぜならばこの路線こそ、レーニンが全力をふりしほってたたかった第二インターとカウツキーの日和見主義、社会排外主義の路線であり、また第二次大戦前においては、スターリンと人民戦線戦術の路線として世界革命を敗北せしめた路線として存在し、さらに戦後はフルシチヨフ平和共存路線と構造改革路線として発展してきた路線であり、しかも帝国主義に一定の物質的基盤をもって革命的プロレタリアートを包囲する路線であるからである。

とりわけ三〇年代のドイツ・プロレタリアートの敗北は、端的に前衛党建設の敗北であり、労働者階級の巨大な流動を社民党との党派闘争の勝利をもってみずからのもとに獲得できなかつたことを鮮明につきだしている。すなわちドイツ共産党は、党的任務を情勢の見とくことである。ソ連共産党＝社会帝国主義の国际党派闘争を組織し、中国共産党の後退とたたかい、第一歩の地平からレーニン・コマンテルを継承しなければならない。現代過渡期世界における国際党派闘争の基軸は、一九一七年以降レーニンによってきりひらかれた一国プロ独の世界プロ独への転化へむけたプロ独権力の任務、党的任務をめぐるものであり、それからの転落にたいする徹底した批判でなければならない。

第二は、国際共産主義運動の停滞のなかで、民族解放＝民主主義と民族解放＝社会主義の岐路の前に苦闘している反帝民族解放闘争への固い連帯を形成していくことである。

第三は、これらの任务と固く結びつけ、それらのたたかいの不可欠の環として、自国帝国主義の打倒とプロレタリア独裁権力の樹立にむけたたたかいをになうことである。帝国主義足下にあってこのたたかいは、社帝、右翼日和見主義とのし烈な党派闘争の推進なくてはありえない。

二、中間連合政府派＝社共の反階級性

全世界的な資本主義の危機のなかで、日本帝国主義もまた経済不況、失業の増大、財政危機、他帝国主義との対立の激化という危機

に本格的に見舞われはじめている。そしてその危機の突破の道を、侵略反革命戦争とそれを可能とする国内体制の全面的再編にもとめ

おしのなかに解消し、非合法党を準備しなかつたこと、国際主義的任務を提起しえず、みずからが社民と同じ民族主義の土俵で小戦術を争つたにすぎなかつたこと、これである。

一九三〇年にはドイツ共産党は「ドイツ人民の民族的社会的解放の綱領」を打ちだし、ナチスの民族排外主義に迎合した。また三五年の反ファシズム統一戦線の提起は、「共産主義運動の国民化」「民族ボルシェヴィキ」なるスローガンをともない、ドイツプロレタリアートを国際プロレタリアートと切断し、民族主義の土俵に引きずりこんだのである。西欧共産党のファシズムへの敗北はこの結果であつた。そしていま先進帝国主義国共産党はこの敗北の道へと三たび労働者階級を引きいれんとしているのだ。

革命的プロレタリアートはこれらの社帝の反革命性を暴露し、帝国主義足下の階級闘争からその影響力を一掃しなければならない。そのたたかいの中心軸にわれわれは鮮明に国際主義的任務をおかねばならない。

その第一は、噴出しつづける国際階級闘争をプロレタリアートの社会主義革命の路線をもって牽引しうる世界単一党を建設すべく、いっさいのたたかいをこの観点から組織しうることである。ソ連共産党＝社会帝国主義の国际党派闘争を組織し、中国共産党の後退とたたかい、第一歩の地平からレーニン・コマンテルを継承しなければならない。現代過渡期世界における国際党派闘争の基軸は、

民族解放＝民主主義と民族解放＝社会主義の岐路の前に苦闘している反帝民族解放闘争への固い連帯を形成していくことである。

第三は、これらの任务と固く結びつけ、それらのたたかいの不可欠の環として、自国帝国主義の打倒とプロレタリア独裁権力の樹立にむけたたたかいをになうことである。帝国主義足下にあってこのたたかいは、社帝、右翼日和見主義とのし烈な党派闘争の推進なくてはありえない。

問われる

社共との本格的闘争

いま日帝は、超過利潤の一定の分配をもつて、自国内プロレタリアートの一定層をブル

1983年1月1日

烽火

ジヨアジーの協力者として育成し、支配の要としてきたやり方から、「国益のために耐えよ」とのイデオロギー集約型、強引な上から組織化をねらって、労働運動そのものの解体が國においてもダイナミックに開始された。II産業報国会化を基軸とした攻撃が激化している。軍拡・改憲・行革を政治理念とする中曾根政権の登場は、そのもともと端的なあらわれである。

これにたいし労働者人民の政治的流動がわが國においてもダイナミックに開始された。

すなわち第一には、生活不安と戦争への危機感を背景にした反戦・核運動の高揚であり、第二には、帝国主義的労戦統一や行革攻撃にたいする労働戦線での歴史的流動と分解、とりわけ総評労働運動におけるそれである。それらはきわめて大規模な活動・高揚を労働者人民の政治生活のなかにもたらしているが、自然成長のままにとどめておけばブルジョアジーの側にからめとられてしまう危険性を有している。くわえて現下の日帝ブルジョアジーの攻撃は、既成の議会内諸政党、労働手代どもをまきこんだものとしてあり、彼らとの、とりわけ労働者階級内部に潜む社共との闘争を、労働者人民の流動の内部から組織することが決定的に重要なものとなる。

日帝の攻撃の環は明白に、プロレタリアートのたたかいを鎮压しきり、闘争が拡大しうるいかなる条件をも根絶しきることにある。そのことは逆にプロレタリアートにとっても、現下の日帝とその手下たる労働貴族どもによる十字砲火にたいしては、プロレタリアートの革命的政闘闘争による突破以外に勝利の道はないことを示すものである。

それゆえにこそわれわれはいま、社共にこそ本格的な党派批判を実践焦点づけねばならないのである。なぜなら彼らが労働者人民のなかで、いまだ圧倒的な影響力、組織波及力を有しております、かつ、彼らの社会排外主義、中間連合政権構想が戦争前夜の時代にあっては、とり返しのつかない、プロレタリアートの決定的な敗北の道を準備するものであることが、あまりにも明らかだからである。

具体的なあらわれとしては、労働運動においては、労働運動の解体II産業報国会化を意味する同盟主導の右翼的労戦統一を積極的に推進し

ていること、また反核運動においては、それを国連への請願運動と集票運動に封殺している現在にあっては、これまでの二度にわたる大戦時に、「国益のために」侵略戦争に全面協力していった社民の歴史を早くも再現しようとしているのである。

それらのことは八二年二月の社会党大会で「八〇年代の内外情勢の展望と社会党の路線」(以下「展望と路線」)を、これまでの彼らの綱領的文書たる「日本における社会主義の道」にかわるものとして採択したことにもあらわれている。すなわち「展望と路線」を概括すれば、「社会主義の道」よりも彼らの路線のブルジョア的性格が、いつそうあらわになつていている。いわく「現代資本主義の基本的性格は国家が資本主義の経済システムに大幅な抑制をくわえ、社会体制の組織的再編のため、全面的積極的に介入をすすめている点にある」「したがって労働者などの國家権力への参加と介入によって体制の変革が可能である」。また「当面の社会主義運動の焦点は連合政権の樹立であり」、しかも「この連合政権は社会主義への移行をあらかじめ予定するものではなく」「市場経済にたいして必要な公共的制御をくわえるなど、いくつかの政策理念に集約される政権」と主張しているのである。

われわれは現下の「戦争と革命の時代」、日帝の侵略反革命戦争とファシズム準備の攻撃にプロレタリアートがいかなる階級的決着をつけるべきかが問われている時代に、革命的プロレタリアートが果たすべき任務は、排外主義との分岐を画然とプロレタリア大衆の徹頭徹尾プロレタリアートに立脚した政府権力樹立にむけたプロレタリアートのたたかいをしっかりと組織し、強めていくことに設定しきらねばならないと考える。

しかし社会党は、現在の政府権力がブルジョア独裁権力ではないのだと主張し、労働者はこの政権に介入し、参加していくことによつて社会主義をめざすべきだといつて労働者をたぶらかし、ブルジョア独裁権力の延命はすでに破産した西ドイツ社民党をモデル化していることにも象徴的であるし、また「当面の政治路線としては①高度成長のなかで確保した生活水準を守る②より高度な社会的公共的な生活水準の質的向上の確保③政治反動化を阻止し、より高度な民主主義社会をめざして新しい権利闘争や文化の向上を追求する」という主張にも明らかである。これらはブルジョアジーの一定部分でさえも共有できるものであり、現在の日帝の基本方向との真正面からのたたかいを組織するという観点などみ

じんも存在しないどころか、ブルジョアジーとの融和、階級協調を労働者に強いるものである。

さらに「樹立すべき連合政権は現実の経済的条件に即して改革闘争を集約する政権であり、国際関係のなかでの国民的利益を着実に実現する政権である」や、「資本主義のもとでの上からの改良的改革が可能であり」、「それにより、一九三〇年代の危機と異なり恐慌からファシズム、戦争への道を回避できる」などの主張を見るとき、現在の社会党の道にかわるものとして採択したことにもあらわれている。すなわち「展望と路線」を括すれば、「社会主義の道」よりも彼らの路線のブルジョア的性格が、いつそうあらわになつていている。いわく「現代資本主義の基本的性格は国家が資本主義の経済システムに大幅な抑制をくわえ、社会体制の組織的再編のため、全面的積極的に介入をすすめている点にある」「したがって労働者などの国家権力への参加と介入によって体制の変革が可能である」。また「当面の社会主義運動の焦点は連合政権の樹立であり」、しかも「この連合政権は社会主義への移行をあらかじめ予定するものではなく」「市場経済にたいして必要な公共的制御をくわえるなど、いくつかの政策理念に集約される政権」と主張しているのである。

われわれは現下の「戦争と革命の時代」、日帝の侵略反革命戦争とファシズム準備の攻撃にプロレタリアートがいかなる階級的決着をつけるべきかが問われている時代に、革命的プロレタリアートが果たすべき任務は、排外主義との分岐を画然とプロレタリア大衆の徹頭徹尾プロレタリアートに立脚した政府権力樹立にむけたプロレタリアートのたたかいをしっかりと組織し、強めていくことに設定しきらねばならないと考える。

しかし社会党は、現在の政府権力がブルジョア独裁権力ではないのだと主張し、労働者はこの政権に介入し、参加していくことによつて社会主義をめざすべきだといつて労働者をたぶらかし、ブルジョア独裁権力の延命はすでに破産した西ドイツ社民党をモデル化していることにも象徴的であるし、また「当面の政治路線としては①高度成長のなかで確保した生活水準を守る②より高度な社会的公共的な生活水準の質的向上の確保③政治反動化を阻止し、より高度な民主主義社会をめざして新しい権利闘争や文化の向上を追求する」という主張にも明らかである。これらはブル

ジョアジーの一定部分でさえも共有できるものであり、現在の日帝の基本方向との真正面からのたたかいを組織するという観点などみ

自國帝を免罪・美化する日共

日共もまた戦争前夜の時代たる現在、日帝ブルジョアジーとの正面戦を、プロレタリアートをひきいて組織しえないことははつきりしている。われわれは社民にもまして、日共の社会排外主義と反プロレタリア性を大衆的に暴露しつくさねばならない。社会党と異なり、日共はいまだマルクス・レーニン主義の党を潜称し、プロレタリア大衆内部で一定の「前衛党」としての幻想を与えてづけていたからである。以下、昨年の日共一六回大会決議をとりあげ、革命的プロレタリアートが画すべき分岐点は何かといふこととの関連で、日共批判を明らかにしていきたい。

まず第一には、国際階級闘争に関する態度についてである。帝・社帝の世界支配再編のなかで、労働者人民の反撃の炎が世界的に燃え広がっていることはすでにふれたが、日共はこれらたたかいにたいして、ある時は公然と、またある時は隠然と敵対しているのである。すなわち、新植民地支配下の諸国における反帝民族解放闘争の前進にたいする敵対がその一つである。日共は「こんにちの緊張

した国際情勢下では、国際紛争を解決するためには「力の政策」に訴えようとするあらゆるあらわれに反対し、国際紛争の平和的解決の立場の堅持が重要」とのべ、戦争問題をブルジョア的見地から評論するばかりでなく、武器をとつたたかう人民に水をかけ、反帝民族解放闘争勢力の武装解除を要求するのである。二つにはソ連・東欧圏をつらぬく階級闘争の前進にたいする敵対である。これについては、ポーランド「連帯」のたたかいに関し、「ストライキ乱発の傾向や反社会主義的潮流との結びつきを批判し、これと闘争」せねばならないと主張していることに典型的である。

これら日共の立場は、小ブル平和主義にもとづく「戦争一般」にたいする反対であり、帝国主義戦争も革命戦争も同列におくところの反階級的なものである。

第二には、国際的な党派闘争にたいする態度、とりわけソ連社帝にたいする態度についてである。日共は国際共産主義運動における党派闘争の意義をまったく否定している。彼らは「世界の共産主義運動における大国主義、霸權主義のあらゆるあらわれと断固としてたたかうこと」を国際的任務にかかげ、ソ連の役割りも「全体として人類史を平和と進歩の方向に前進させる積極的な原動力のひとつとなってきた」と肯定的評価をしたうえで、「誤りは他国への干渉行為にある」として、ソ連批判を干渉主義にのみブルジョアジーの立場と同様の立場から切りちぢめ、さらには「日本本の党と民主運動に干渉や攻撃をくわえないかぎり(ソ連共产党との)関係を発展させる」と言明するにいたり、社会帝国主義としての路線的本性の同一性を、みずから満天下に明らかにしているのである。また日共は中国共产党にたいしても「国際活動における干渉主義が根本的誤り」であるとし、中国が日共への批判を停止すれば問題はなくなるとして、これまでの中ソ論争をはじめとする国際共産主義運動をめぐる路線論争そのものを根本否定し、結局は中国共产党に社会帝国主義の立場を共有せよと要求しているのである。

そして第三には、自国帝国主義打倒のたたかいに関する態度である。「自民党政府は(日本の)拡大強化した経済力を基盤に、対米従属を断ち切る『自立帝国主義』の道ではなく、米帝に日本を深くみこんだ」「日本経済の現実も対米従属的な独占資本主義の体制と自民党政権内では、こんにちの危機の根本的打開がもとめられない」「日本経済の再建をはかるためには……民主的行政改革、自主的経済外交などへの転換が急務である」と。そしてそのために「革新統一戦線」を結成し「民主連合政府」を樹立することが日共の方針結論である。

これはすなわち、内外の労働者人民からの論である。

強奪をもとに拡大した日本資本主義の経済力を是とし、だれのものでもない帝国主義の危機を国民全体の危機にすりかえる立場の、自国帝国主義の免罪・美化論である。その根本には資本主義そのものを否定しないといふ資本主義擁護の立場が存在している。さらに自立的なより強い帝国主義を自民党にかわって、日共がつくりあげる用意があるといふ、きわめて見事な社会排外主義宣言である。ここからは日帝の朝鮮・アジアなどへの侵略組織化などは引きだされるはずもなく、ましてや、自国帝国主義打倒のたたかいなどは組織しないどころか、このたたかいへの敵対者として立ちあらわれるのは、いわば必然的なことなのである。

社共に屈服する

右翼日和見派

さて以上のべてきたように、社共は双方とも戦争とファシズム準備の攻撃にさらされてゐるプロレタリア大衆の現実の要求に、階級的にこたえきる政党たりえない。戦争前夜の時代にあって、排外主義との闘争を組織できない政党は、ブルジョアジーの戦争遂行への協力者へと転落していくこと、またブルジョア国家権力の解体を前提とせず、したがつてプロレタリアートの独裁権力を否定する政党は、かならず敵階級に屈服していくことは、歴史の示すところである。

これらのことは、労働戦線においてはどのような誤りとなつてあらわれているか。

労戦右翼統一戦線報化攻撃にたいして、社会党はすでに敵の軍門に下り、積極的推進派として総評・民同をあと押ししている。日共は統一労組想をもって、公然たる右派勢力とは別潮流を形成してはいるが、内容的には典型的に「教師聖職論」「自治体労働者」「全体の奉仕者論」「スト自衛論」などに示されるよう、労働者の階級形成の観点などみじんもなく、現実の労働運動のなかではむしろ右から批判者として存在している。日共の労働運動指導路線は、彼らの大衆的スローガン「大企業の大もうけを国民に還元せよ」に見られるように、帝国主義の超過利潤にむらがめにも絶対に必要なのである。

三、階級的労働運動の陣型を構築せよ

われわれは「労働情報」、とりわけこれを支える多数の戦闘的労働者の存在と動向に注目してきた。それは、これを支えてきた大衆の運動が、きわめて限定的とはいえ、階級的労働運動、階級的労働組合運動と労働者政治運動に関する共闘形成へと発展する可能性をもつからである。

われわれはいかにしても、真に大衆的基盤

り、その平等な分配をブルジョアジーに要求するという社会排外主義の立場と結びついて、結局は労働者を帝国主義ブルジョアジーとの和解と合流の道に導びく以外のなものでもないものである。

これら社共のあとがまをねらって、労働者内部に幻想をふりまく部分、大衆の自然發生性に右から追随する右翼日和見主義者たちが、現在の階級攻防が主として右からの攻勢に規定されていることを反映して、力をそようと定している。第四インターは赫旗派などがそれである。とりわけ赫旗派については、共産主義者同盟の革命的な歴史のすべてを清算し、徹頭徹尾、右からのブンド総括を純化した輩であり、われわれは責任をもつて階級闘争のあらゆる戦場から放逐せねばならない。

赫旗派の誤りに満ちた路線を整理・批判すれば次のとおりである。

第一に、現実の運動の自然發生性にたいしてあれやこれや意味付与をするという、階級形成に關する「啓蒙主義」であり、第二に、國際階級闘争を領導するという立場を欠落させ、各國のたたかいを解釈するというだけの國際主義に關する評論家集団であり、第三に、労働運動にたいする指導に關しては、骨のずいからの組合主義であり、レーニン主義の「労組」「革命の学校」、共産主義の「学校」という観点はいささかもなく、第四には、革命の問題については結局、平和ゼネスト革命論者であり、プロレタリアートの革命を武装蜂起一プロレタリアート独裁として組織することへの敵対者であり、そして第五には、党建設に關して、「綱領」「サーカル主義」にもとづく連合党論者である。彼らは中央集権非合法党建設に敵対する合法主義の啓蒙集団であり、とうていプロレタリアートの革命を領導できるものではありえない。

われわれは彼ら右翼日和見主義者との、とりわけ労働運動の戦場におけるたたかいの重要性を確信する。それは現下の労働運動をめぐる歴史的流动局面のなかで、「労働運動」をはじめとする先進的労働者たちの本格的苦闘が開始され、彼らとの團結を強め、階級的労働運動の強固な陣型を構築していくためにも絶対に必要なのである。

われわれは、烽火三四号をもつて戦取すべき統一戦線に關する原則的見解を明らかにしてきた。そのうえで「政治的統一戦線と階

反戦・反核運動はひとりブロレタリアートの階級運動ではない。日帝の危機にあつて動搖する小ブルの政治要求が混在するのみならず、支配階級の帝国主義・排外主義へゴモニーがその手をのばしている。にもかかわらずここに現実の被抑圧人民の自然発生的 requirement とその運動を認めるがゆえに、労働者階級の政 治的領導を不可欠とするものである。

何よりもまず第一に、反戦・反核運動のた だなかに、大衆的なプロレタリアートの政治要求を鮮明にかかげて、その共闘の隊列を打ち込まねばならない。そうすることによつて

組合主義は総評運動の最も否定すべきものの一つとして総括されねばならない。

「情報グループとその運動」は反戦・反核運動に際してのプロレタリアートの階級的政 治的任務を、この総評運動の総括から立てねばならない特別の任務がある。それは、多くの部分が総評運動の胎内から生み出された反対派であり、さらに、今後も圧倒的多数の総評内左派反対派労組と活動家を結集させねばならないからである。

長、日帝の復興過程に物質的基礎をもち、現場大衆実力闘争路線により生み出された活動家の層的創出と地域共闘組織に支えられた戦闘的経済主義、および、組合主義的政治闘争主義であったといえる。活動家の層的創出と地域共闘組織は、総評運動の遺産として民同の手から防衛し、われわれの手によつて再建されねばならないものであるが、経済主義、

高揚をみせ、八三年にあつてもその自然発生する「全民政治闘争」であつて、この運動のただなかに、プロレタリアートの政治要求とその運動の打ち込まれることが要請されるものである。これは反戦・反核運動の自然発生的高揚に際してのプロレタリアートの階級的要求であるが、「労働情報とその運動」がなだれうつ産報化攻撃を受けてたつ、階級的労働運動の有効な組織的武器たりえるかどうかの第一は、この任務を断固としてやり切るかどうかにかかる。

総的労働運動の統一戦線は、正面二元で準備せざるをえない」とのべてきた。それは、わが国における前衛党建設の弱体さに根拠があるとともに、戦闘的労働者の多くの部分がいまだ總評運動の胎内から生み出された反対派にとどめられているという現状に根拠をもつものであった。

しかしながら、八二年階級闘争の成果を主客の条件に、八三年はいよいよこれを統合的にきりひらきうる時であると確信する。

政治的統一戦線の――

構築は急務

のみ、プロレタリアートの政治要求に代表され、その陣列に領導される全人民政治闘争へと反戦・反核運動を前進させうるのである。われわれはいささかも、このプロレタリアアートの政治統一戦線をもつて党による全面的宣伝・煽動——革命的政治闘争を行なえるなどとは考えていない。「労働情報とその運動」の任務——プロレタリアートの政治要求の組織化に敵対し、反戦・反核運動をその階級的あるいはいまいさの中に閉殺せんとする総評ヘゲモニー、社共の策謀と真正面からたたかうことこそが、「労働情報とその運動」を大衆的なプロレタリア政治共闘へと発展させる道なのである。

全国労組連絡会議を

した個別要求を集中せしめる原則的課題である。この政治スローガンを眞に広範な人民大衆のたたかいのスローガンにせねばならない。われわれは八三年にのぞみ、階級的労働運動の陣型をたたかいたるために、まずもつて、たとえ左翼的、戦闘的であろうと労働組合のもつ限界を一步突破するところに、孤立を余儀なくされている多数の労働者活動家に政治的統一戦線を構築することを呼びかける。われわれはこの目的のため、労働組合の圧倒的大衆を政治領導する直接的、具体的準備のある党派、団体との共闘を追求するであらう。

労戦右翼統一の歴史的性格は産業報国会化攻撃にある。この攻撃の手代たる社民右派の本性は自国帝国主義の危機に際してのブルジョア階級としてある。かつ、幾度もくり返すよう、この産報化攻撃は日帝の根底的危機に根拠をもつ不可避的な階級闘争としてとりくまねばならないものである。この時、総評の防衛戦にとどまり、総評の再生を夢想するものは、この階級闘争から逃亡するもの以外の何ものでもない。総評運動は、その経済的政治的基礎である日本資本主義の高度経済成長の破綻とともに歴史的に破産したのである。かつては戦闘的物取り主義として現われた経済主義が、日帝の危機の時代にあって、自国帝国主義擁護、帝国主義的排外主義へと転化するのもまた、必然的な路線的結果というべきである。

以上から導き出される結論がある。それはいま、階級的、戦闘的労働組合の全国的、地的共闘組織の構築を日和るものは産報化攻

以上から導き出される結論がある。それは方的共闘組織の構築を日和るものは産報化攻撃への屈服者であるということである。この点からわれわれは「労働情報」の「全国労働組合・活動家連絡会議」構想に関心をもつ。しかしながらその構想は、現下のプロレタリア階級の要請に応ええない弱点をもつてゐるとともに、また、その構想が、立脚すべき物質的基盤を正しく設定していないと見ざるをえない。

労戦右翼統一に反対する「左翼労働組合」の多くが総評運動の総括を不徹底に放置する

かれえに総評補完物という吹轉から自由になりえていないこと。この点から「総評主義」の批判戦が重要な共通の任務となつてゐるることは自明のことであるが、問題は、おおかれ少なかれ「総評」の枠をはなれた「活動家」の多くの部分がもつ質的限界の突破をいかになへかう。

「活動家」といわれる多くの部分は、労組指導および、労組内大衆運動指導と隔絶した少數反対派の個々人としてしか存在していない。ここには二つの面で階級的労働運動の陣型をたたかいとらんとするものにとっての課題がある。

(5) 社共の中間連合政府派の反感を暴露し
大衆を社共のくびきから解き放とう！
このスローガンは全人民政治闘争への階級的領導を目的とし、最も広範なプロレタリアートを結集せしめる当面の政治要求である。
このスローガンのもと、被抑圧人民の分散

烽火

題がある。

第一の面は、総評運動そのものが、かつての日本型戦闘的労働組合主義の最大の遺産ともいべき訓練を積んだ組合活動家層を死滅させたのみならず、六〇年代後半以降、活動家そのものの育成と訓練の場を破壊しつぶしてきましたとの結果であること。これは階級的労働運動の陣型建設戦にとつて重大な困難を与えているのであって、「活動家」を労組建設、労組指導、労組内大衆運動指導をしないする活動家へと武装していくための陣営内の訓練が焦眉の課題となつてきているのである。

第二の面は、これら「活動家」を労組内の活動に關しても、あいまいな不徹底さにとどめ、労組の枠をこえる階級闘争に關してもあいまいな不徹底さに陥しこめているところの彼ら内部にある思想的誤りである。

の右翼的残しの汚染といえる。党・階級形成二元論、自己権力論に色濃く染まるがゆえに、六〇年代後半、その胎内から大衆的自然発生的武装闘争の高揚からの逃亡者、右派ソビエト主義者をその最も悪質な経済主義者、解説者として生み出した「社・労研路線」のもつ安易さに、無自覚、無縫括に寄りかかる誤りである。

組と並列するような考えは、自覚するとしないことにかかわらず、かつての「社・労研路線」への右翼的寄りかかりであり、右派トロツキズム的ソビエト論に汚染した解党主義、平和労働組合の任務とその内部での共産主義者の任務に関する軽視と、他方での工場内活動に閉じこもる誤りの双方に発現する。それは、なんにちの「活動家」の多くが自らを階級的学労運動の戦士へと打ちきたえようとする階級的努力を阻害するものであるといわざるをえない。

われわれは、「労働情勢クループ」の叫びをかける「労組・活動家連絡会議」というあいまいな組織に反対する。それは資本と国家権力と右翼の重包囲のなかで、現実の組合員士衆を組織しながらたたかう階級的労働組合の要請する陣型と共闘にとって何の意味もないばかりか、このような無責任な組織が未組織労働者を組織できようなどとは、少々の経験をもつ労働者ならだれ一人として認めないところである。同時に、このようないまいな組織は、労働組合のもつ限界—階級の第一次団結体としての第一歩性を突破して、階級闘争のより全体に決起せんとする無数の活動家が真に必要とする統一戦線形成にとっても、いままさに先進的プロレタリアートの総決起を要請する政治的任務の遂行にとっても阻害物になってしまふであろう。

するものは、結局のところ、産報化攻撃の背後にある敵党派に宣戰布告して決起した活動家を、前衛党建設と社会主義革命から切斷された無力な組合内不平分子におとこめようとするものである。先進的労働者がそのような状態にとどまる限り、結局は社会主義と党建設をめぐる社共との党派闘争が勝利しなければならないものは、社会主義と党建設をめぐる社共との党派闘争なのである。

われわれは主張する。階級的労働組合の連合を展望して、ただちに労組連絡会議を組織しようではないか。その意志一致と行動のための指導機関を、戦闘的労働組合の正規の指導機関から派遣される代表によってこそ形成しようではないか。

同時に労働組合の枠を越えるプロレタリアートの政治的統一戦線をただちに形成しようではないか。そうして、この基盤の上に、その双方を共闘させ、媒介せしむる会議体とその機関を構築しようではないか。

われわれはこれを空論するのではない。すでに九〇〇名の臨時工、六〇〇名の本工を單一労組に組織し、四企業内労組を單一の合同労組として活性化させてきた新しい労働者群を支持し、これに依拠し、この合同労組を含む官民十二単組を日常的労組共闘として発展させてきた京都洛南労組連のたたかいを支持し、このたたかいに依拠しつつ主張するのである。たしかに彼らたたかいはいまだ一地方的であり、いまだひとにぎりのものであるしかし現下の産報化攻撃のなかで、このたたかいの開始がつげるはかり知れない大きな階級的任務は、必ず全国におしひろげられねばならないものなのである。

ならぬものなのである。

あらゆる戦線で 労研の建設を

労研の建設を

社共の労働運動支配下で、わが国プロレタリア革命運動は、その大衆的基礎に関して長く労働組合運動と政治運動の分断、経済闘争と政治闘争の分断を余儀なくされてきた。しかし、いまやその支配は根底から破産し、侵略反革命戦争、産報化攻撃のなかで社共はなすべきもない。まさに時代は、革命的プロレタリアートにとって千載一遇の攻勢への転換点に達した。

の劫火へと発展させよ。プロレタリアートがきりひらいたこの戦線はただ一つ、次のことをすべての先進的プロレタリアートに要請している。この戦線にあっては経済闘争と政治闘争が切りはなたれがたく結合してたたかわれることを。第一次団結体のための活動と、社会主義のための活動が、きりはなたれがたる鞄帯をもつて無数の労働者に息吹き込まれることを。かつてわれわれは社共支配のもと、われわれの力量の微細であるがゆえに政治的統一戦線と労働運動の統一戦線を、二元に準備せざるをえないことを認めた。しかしいまやわれわれは、この二つを单一に、みずから之力できりひらくべき時にきた。

「武装せる革命の伝導路」を組織として機能せしめること。多くの先進的労働者、農民学生を、この伝導組織に結集せしめること。この前衛党建設事業に勝利することなくして階級的労働運動の陣型、労組連とプロレタリア政治統一戦線を社共の眼前にうちたてることはできない。

われわれは、すべての同志・友人に、すべての工場、すべての戦線、すべての地区、すべての学園で「武装せる革命の伝導路」を「労研」（仮称）として組織化することを呼びかける。われわれが幾度も明らかにしてきたように、たたかいとするべき「労研」は、かつての「社・労研路線」の厳格な総括のうえに新しくうちたでられる伝導組織である。

ふりかえってみよう。かつてわが同盟が反日共労働者統一戦線として組織した社・労研は、日本型戦闘的労働組合主義としての総評運動の高揚のなかで民同をのりこえんとする多くの戦闘的労働者の組合内フラクとして、当時の労働運動の活性化に大きな力をおよぼしてきた。しかし当時の党建設の脆弱さと結びつき、党・階級形成二元論、自己権力論、労働者政治組織論的誤りに色濃く染まり、そのソビエト主義的解党主義と、ゼネスト革命路線をその胎内から生み出し、六〇年代末、大衆的自然発生的武装闘争の巨大な激動からの逃亡者、経済主義組合主義をもって、武装闘争を領導しうる前衛党建設に敵対する部分を生み出すにいたった。

この労研内右派との党派闘争を最も激しくたたかつた電通労研が、当時の局面のなかでみずからを工場内反戦青年委、地区反戦青年委の領導部隊へと転化させ、地区労研の建設労働者軍事組織の建設へと武装闘争の最前線をないきるながら、レーニン主義中央集権非合法党の建設をプロレタリアートの焦眉の課題として押し出す全過程を、旧社・労研路線にしがみつく右派は、全労活などの「労働者協議会路線」をもって敵対してきたのである。先進的プロレタリアートは、現下の階級的労働運動の陣型建設戦に潜入するこれら解党主義者とみずからを激しく峻別しなければならない。

12・11～12

全民労協発足に抗し 全国労組・活動家連絡会議 結成さる

まず第一に、建設すべき「労研」は、レーニン主義中央集権非合法労働組織としつかりと結合しなければならない。それはあらゆる解党主義とたたかうのみならず、階級闘争の最高の形態たる労派闘争、社共との労派闘争、革命的陣営内に潜入する現代カウツキー主義集団「赫旗」との労派闘争を自らの任務とすることに裏打ちされねばならない。

第二に、建設すべき「労研」は、社会主義革命運動と自己の現在の任務をしつかりと結合しなければならない。それは資本主義の原則的批判、帝国主義批判の武装とどまらず、わが国プロレタリア革命路線をめぐる一方での平和ゼネスト革命路線、他方でのゲリラ戦闘路線とたたかいきり、党により計画されたプロレタリアートの全国一斉武装蜂起路線をしっかりととかげ、みずからをソビエトと赤軍へと歴史的に形成する大道をふまえねばならない。

第三に、建設すべき「労研」は、現実の階級闘争の深部へと突撃し、自己を大衆の護民

官的前衛として、同時に、大衆の政治的前衛としてたち現われねばならない。まさにレーニンの遺訓「何をなすべきか」と「左小病」の統合を自己の実践指針とし、未組織労働者を組織し、労働組合を階級の第一次団結体、広い階級闘争の戦場、政治的戦場へと決起せしめる任務につかねばならない。

第四に建設すべきわれわれの「労研」は、自己を政治警察、資本の暴力的攻撃とたたかねばならない。労研は公然たる活動を最後まで発展させ、合法的領域を最後まで守りぬかねばならない。みずからをわずかひとにぎりの先進的部分の閉鎖的組織にしてはならない。遅れて参加するもの、すべてでなく一部に賛同して参加するもの、彼らをみずからの中に大胆に組織しなければならない。

しかしながら同時に、不斷なる政治警察、資本、敵対労派の包囲攻撃から、みずからの組

隊型の中に大胆に組織しなければならない。敵の攻撃に分散した砦を守るのではなく、階級的労働運動の陣型を断固として建設し、労働者階級の大軍を陣列にむかわしめ、みずからをその前衛たるべく「武装せる革命の伝導組織」に結集せしめよ。

わが同盟はもてる全力をあげて、この階級的要請に応える決意である。共産主義者同盟（全国委）とともにたたかわん！

組織と運動を防衛しきるための非合法活動能力と、大衆をはげまし勇気づけるべき必要に際して、その用意のある戦闘組織として自己を準備しなければならない。

すべての戦線でたたかう労働者、農民、学生諸君／八三年をプロレタリア階級、被抑圧人民の、階級的攻勢への転換点としてたたかぬこうではないか。まさに被支配階級のみならず支配階級さえいままでどうりにはやってゆけない時代が始まったのである。国内外に被抑圧人民の苦痛と怒りが充満している。その要請に応え、遼原に劫火を点すべく、労働者階級としての自己の生涯を決起せしめようではないか。敵の攻撃に分散した砦を守るのではなく、階級的労働運動の陣型を断固として建設し、労働者階級の大軍を陣列にむかわしめ、みずからをその前衛たるべく「武装せる革命の伝導組織」に結集せしめよ。

わが同盟はもてる全力をあげて、この階級的要請に応える決意である。共産主義者同盟（全国委）とともにたたかわん！



十二月一、一二日、東京労福会館において全国から二五〇名の仲間の結集で「労働戦線の右翼的再編に反対し、闘う労働運動を強める全国労組・活動家連絡会議」が結成された。この「全国連絡会議」は、佐藤忠義（鉄鋼労働者協会）、平坂春雄（全港湾関西地本）、橋井美信（全金大阪亜鉛支部）、佐藤芳夫（全造船石川島分会）の四氏の呼びかけにより、一連の会議をへて結成されたものである。

二日間にわたって開催された結成集会では、まず議長団選出、市川元総評議長、全金において右翼的労戦統一をおしすすめる現執行部と対決し、たたかう潮流形成を前進させるべく委員長選にうつてでた中里元全金副委員長の来賓あいさつの順ですすめられた。その後、基調提案、各産別の現状報告が力強くおこなわれた。

つづいておこなわれた討議では、産の組織参加と一八団体の結集が多くの労働者の反対を押しつぶして発足した。

全民労協（12月14日）

合の着実なたたかいの蓄積の重要性」を提起した。その後、基調、運営要綱、行動方針などの採択と世話人選出がおこなわれ、一六単一性である。

つづいて清水谷公園で全国総決起集会が一〇〇〇名の全国のたたかう仲間の結集でおこなわれた。確認された。最後に「一月大阪集会、八三春闘を始めとしたたかいうの渦中で圧倒的な組織拡大をやめ労働組合による階級的労働運動の戦士として広範な組合の組合主義政治闘争と峻別し、独自で建設していくことの必要性である。このたたかいを欠いて、眞理型が、早急に構築されねばならない。

組織と運動を防衛しきるための非合法活動能力と、大衆をはげまし勇気づけるべき必要に際して、その用意のある戦闘組織として自己を準備しなければならない。

すべての戦線でたたかう労働者、農民、学生諸君／八三年をプロレタリア階級、被抑圧人民の、階級的攻勢への転換点としてたたかぬこうではないか。まさに被支配階級のみならず支配階級さえいままでどうりにはやってゆけない時代が始まったのである。国内外に被抑圧人民の苦痛と怒りが充満している。その要請に応え、遼原に劫火を点すべく、労働者階級としての自己の生涯を決起せしめようではないか。敵の攻撃に分散した砦を守るのではなく、階級的労働運動の陣型を断固として建設し、労働者階級の大軍を陣列にむかわしめ、みずからをその前衛たるべく「武装せる革命の伝導組織」に結集せしめよ。

わが同盟はもてる全力をあげて、この階級的要請に応える決意である。共産主義者同盟（全国委）とともにたたかわん！

組織と運動を防衛しきるための非合法活動能力と、大衆をはげまし勇気づけるべき必要に際して、その用意のある戦闘組織として自己を準備しなければならない。

すべての戦線でたたかう労働者、農民、学生諸君／八三年をプロ

十二月一日、京都南部の久御山町中央公民館において「人効凍結粉碎！右翼的労戦統一とたたかう労働者集会」が開催された。

合、自治労城南衛官労組など一六〇名をこえる地域の官民労働者による実行委によって開催され、ハセガワを組織した。

唱構成劇「嵐のなかで」と創作劇「新しい世代」などの上演と、結集した各労組の決意表明とを軸に終始熱気につつまれ、進められた現在、ブルジョアジーは、行革運動を解体しつつ、一方で帝国主義的労戦統一派による全民労協発足を軸に日本労働運動の産業報国会化攻撃を本格的にしかけていた。これになだれをうって合流する総評指導部とはつきり分岐したたかがいが独自につくりあげられる。これに

ねばならない。採択された集会アピールは、このことを高々と宣言した。そして、「いかなる産別分断も許さず、官民統一して強力な地域共闘を推進してゆくこと、政府の侵略戦争策動とたたかうこと、他民族抑圧を許さないこと、行革一人勧凍結とのたたかいと右翼的労戦統一とのたたかいをしっかりと結びつけてたたかうこと」を、集結した八〇〇余名の官民を貢ぬく全労働者の任務として確認して集会は幕をとじた。

階級的労働運動の大きな陣型を形成するため、官民を貫ぬく大衆的な地域共闘をさらに発展させることができいまや問われている。

11-18

学生共同行動に四五〇 反憲学連一掃に巨歩

明才

全民突協粉碎掲げ学生集会

18 京都

大学において、日大全文理連絡会議（銀ヘル）の呼びかけによつて「ファシスト学生運動武装登場糾闘弾二周年学生共同闘争」がおこなわれた。二年前のこの日、反憲学連は、「日大文理を一点突破し全國護憲大学を陥とす」と宣言し、日大文理武装制圧にふみだした。以降二年にわたる日大（銀ヘル）

十二月八日、全民労協発足粉砕
！右翼的労戦統一とたかう京都
学生集会が実行委主催で開催され
た。一四日にせまつた現代の産業
報国会＝全民労協の発足を前に、
日本労働者階級へのこの挑戦状を
真向うから受けて立つ学生のたたか
いの新たな一步がここに印された。

全民労協発足をめぐる労働運動内の流動にふれたあと、氏は、「現在の企業において学卒労働者が最も企業意識が強く、資本の手先となりやすいこと、それは今日の学生支配の結果である」ことを明らかにし、それゆえ学生の時代から意識的な階級形成が必要なことを聞きいる学生たちに訴えた。

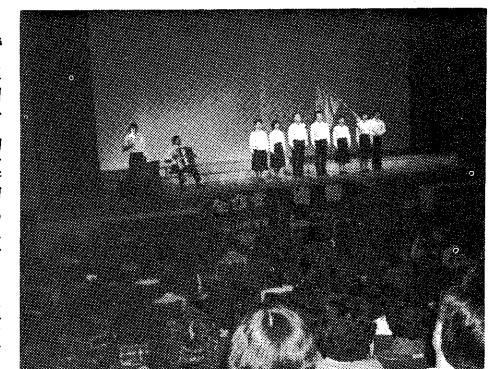
の成果を、学生運動の革命的再建に向けて発展させていくことが宣言され、満場の拍手の中で新たにたたかいへの決意がしつかりとうち固められた。

アシズム学生運動との闘争は全国的な学生共同行動の焦点へとおあげられてきたのである。この前進を基礎に、十一・一八共同闘争は、一昨年を大きく上回る三四大学、六一団体、四五〇名を結集してたたかわれた。

映画「三池」上映で始まつた集会は、京産大、同志社大、京大、精華短大などのたたかう学友の広範な参加を中心に行進的労働者をも含んで、約五〇名の結集をもつてたたかいとられた。基調提起につづいて、階級的労働運動創建のために奮闘するタカラブネ労組委員長・伊藤氏の講演が行なわれた。

つづいて右翼ファシスト反憲學連と実力で対決しつつ学生運動の新たな前進のためにたたかいつづける日大文理（銀ヘル）からのアピールが読みあげられ、さらに京都精華短大からは「優生保護法『改正』との闘争をとおしてその背後にある日帝と資本主義を打倒せよ！」という熱い連帯アピール

12・1 官民共同で人効凍結粉碎集会



二期着工を阻止せよ！



**組織破壊攻撃許さず
決戦勝利に起つ**

事務局長 北原鉱治

八三年の初頭にあたり、このかん三里塚現地に起きた諸問題や現在の政治的的局面を、本紙を通じて全国の皆さんに伝えたいと思います。

『懷柔策粉碎した八二年』

昨八二年をふり返ってみると、八二年は反対同盟の大きな飛躍がかちとられた年であったと、私たちは自負しております。八二年の初頭から石橋・内田問題をめぐつて反対同盟は決断を迫られました。政府・公団との話し合

いは一切拒否するというものが、反対同盟十八年の基本方針であります。二期工事を阻止し、空港を廃港に追いこむためには実力闘争以外はない、政府・公団とのテーブルについた上での勝利はありえないというのが私たちの立場です。反対同盟は同盟全体の総意で、石橋・内田両氏を解任していくという大きなたたかいの前進をかちとりました。

いま三里塚現地では成田用水問題が、大きくもあがっています。成田用水を推進することは、二期工事にたいする賛意をあらわすものです。公団や県は成田用水は空港問題とは関連がないのだといつております。しかし二期工事がはじめれば菱田地区は人の住めない過疎地帯になることははつきりしているのです。懷柔策の一環である成田用水をみずから引き入れておいて空港反対という論理には絶対になりません。それは屈服以外の何物でもない、二期

工事に加担することになるのです。

反対同盟は四年前に戦う農業を提唱し、基盤整備、暗きよをやつた結果、試験段階では大成功に終わり、昨十二月一日からは自主基盤整備が反対同盟全員の一一致で開始されました。これに

は全国から心ある労働者・学生諸君がかけつけてくれました。反対同盟全体による自主基盤整備は、二期工事阻止、空港廃港にむけてのすばらしい前進で

あると私たちは確認しております。

『発展した三里塚闘争』

また昨年一年間、反対同盟は全国の住民闘争に参加してきました。とりわけ大きなことは、東京・大阪での反戦反核のたたかいに参加し、発言の機会を得たということです。三里塚闘争は北富士・日本原・岩国・沖縄などの基地反対闘争とともに反戦反核の砦であり、またその先頭をなうものとして多くの人々から位置づけられたわけです。堂々と巨万の人々に三里塚闘争と反戦反核を訴えたということは、今後の全国住民闘争の発展につながっています。

中曾根は右翼勢力のボスであり、今回の組閣では警察署を歩んできた閣僚が五人もいます。中曾根政権は二期工事にたいし、強硬的な弾圧と右翼路線をもつてのぞんでくるだろうと私たちは予想しています。それにどう対決すべきかを考えるべきだと思っております。

私ども反対同盟は、一月中に旗開きををおこない、八三年の闘争方針とたたかいの展望を打ちだしたいと思つております。また三月二七日には全国総結集会を現地で開催し、八二年が勝利の年であったとすれば、八三年もまた

そうあらねばならないという決意を固めたいと思います。三里塚闘争は全國の住民闘争を背負うものとしてあるのだと、勝利にむかって突き進むことが反対同盟の責務だと考えております。

今年も頑張りますので、ぜひとも全国の皆さんも三里塚に結集されるよう心から訴えて年頭の挨拶にかえます。



新年アピール

三里塚・芝山連合空港反対同盟の

八二年決戦という中で、振り返ってみれば、初頭より、様々な政府・公団による攻撃がふりかかってきました。しかし反対同盟は基本路線を堅持し、また広範なる支援の御協力に支えられ、その攻撃に反撃し、勝利に向かってまいりました。

八二年決戦といふことは、まさに團結の賜物と深謝しております。かえり見ますれば話し合い問題をはじめ、すべて粉碎し今日を迎えました。今日に至る過程では自主耕作を実施しました。これは申すまでもなく全国人民を現地に迎え、ふれあいを持ち戦いの誓を築くことにあります。

ひとえに團結の賜物と深謝しております。かえり見ますれば話し合い問題をはじめ、すべて粉碎し今日を迎えました。今日に至る過程では自主耕作を実施しました。これを土台とし八三年決戦を勝利に結びつけたい。私はそういう展望を持っています。



基本路線を堅持し 團結を固めよう

行動隊長 热田一

日帝＝中曾根の

人民の総決起で 反戦反核の砦を



白樹部落 笹川英祐

戦後三八年目の新春を迎えた。表面上は近代的発展国のように着飾つて見せて、内容の充実しない自民党の悪政による人民への政治規制は目に見えぬ間に覆いかぶさってきていまどこの事実を再確認して、八三年の初頭、皆さんと共に更なる闘いの高揚と共に闘いの強化を誓いたいと思います。

三里塚の戦いも皆さんと共に苦難を乗り越え、十八年目を迎える事が出来ました。心の中に燃える炎を消す事なく、再度怒りの炎を燃え広がらせ、八年着工を目指す中曾根新内閣の軍事大國化と改憲の野望を、二期工事阻止によって打ち碎くことなくして、吾々の正義の闘いの真価は無いと思いません。

三里塚に於いては成田用水攻撃に勝利するため、自主農業の基盤を造る暗きよ排水工事は、連日の労農学の奮闘で、六日には第一次工事分が完成した。今回完了したのは辺田部落の鹿島清、秋葉義光、龍崎敏博各氏の田で、春の田植えの時期までには、これで腰までぐるといわれた湿田が乾田に変わることになる。

基盤整備工事はじまる

辺田 成田用水攻撃に反撃

十二月一日、三里塚芝山連合空港反対同盟の総力をあげて、菱田地区辺田部落で自主基盤整備事業が開始された。自主基盤整備は暗きよ排水工事の開始は、日帝・公敵権力は農民の小土地所有者としての苦悩を逆手にとって、空港と農業の共存共榮をペテン的に宣伝し、成田用水攻撃をもつて反対

同盟懐柔と空港用地内外農民の分断をはかるうとしてきた。この攻撃は今後も當々とつづく。全国から支援連帯の力を結集しよう。



暗きよ排水工事に奮闘する反対同盟と支援

全世界的に「戦争と革命の時代」として煮つまりつある現在、自己の危機を戦争とアシズムをもつてのりきらんとしている日帝にとって、アジアの要石「基地の島・沖縄」の重要性はますます増大している。このもとで侵略反革命前線基地の強化と沖縄労働者人

戦場の島・沖縄現地でたたかいぬく

“赤琉”編集委員会

同志・友人の皆さん。烽火読者の皆さん、反帝戦線（全国委）三里塚現闘団より新年の挨拶を送ります。昨年十二月一日より、反対同盟は、菱田地区で反対同盟独自の戦う農業II自主的暗きよ工事を行っています。このたかには、反対同盟分断一破壊攻撃たる菱田成田用水攻撃を粉碎するものです。まさに、反対同盟は健在であり、八三年二期決戦に向け力強く前進しています。

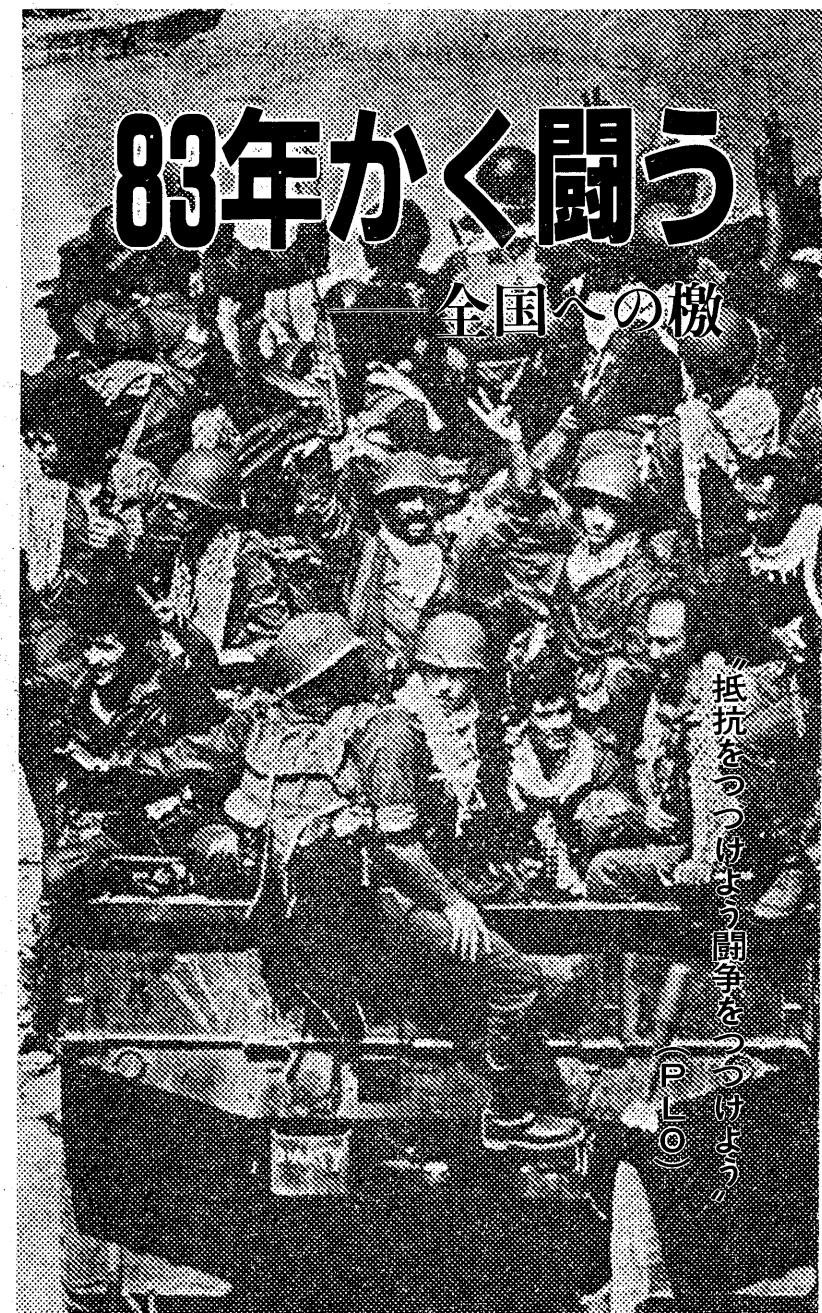
日帝権力一公団の八三年二期着工を策す連続した反対同盟破壊攻撃を打ち破った年こそ昨八二年でした。八二年初頭の話し合い攻撃、六月以降の菱田成田用水攻撃は、労働者人民と農民を分断し、農民の政治意識をおしつぶし土地問題に閉じこめ、敗北主義から反対同盟の破壊と条件闘争への転落をねらうもので

三里塚一期決戦勝利の決意も新たに

反帝戦線（全国委）
三里塚現闘団

した。まさに、日帝の戦争・ファシズム準備と対決する人民闘争の拠点・三里塚闘争を破壊し、侵略反革命軍事空港を完成せんとするものです。しかし、反対同盟は、三・二八、七・四、十・十一の現地闘争、五・二三反戦反核闘争への決起と、石橋・内田氏解任、菱田自主的暗きよの開始によって反対同盟破壊攻撃を打ち破り、八三年二期決戦にのぞむ陣型を作り出しています。このたかには、戦闘的農民運動から、日帝の侵略反革命戦争・ファシズム準備を粉碎し、日帝打倒・社会主義革命に向かう階級闘争への飛躍を問うたたかいもあります。この大道こそ、一切の反対同盟破壊・条件闘争へのおとしこめを粉碎し、土地問題への閉じこめと敗北主義を一掃する道です。

同志・友人の皆さん。烽火読者の皆さん。今こそわれわれは、日帝の戦争・ファシズム準備粉碎、日帝打倒・社会主義革命へつき進む反対同盟の革命的指導部建設と、その下での団結の形成に固く連帯しよう。全国で帝国主義的労戦統一とたたかい階級的労働運動を構築せんとする先進的労働者と農民との連帯を作りあげ、それを社会主義革命に向け進撃する労農同盟へと発展させよう。三里塚闘争を反自民統一戦線の一翼におとしめる部分や、空港粉碎という個別闘争の徹底化から日帝打倒を夢想する一切の日和見主義と対決し、八三年二期決戦を、権力問題をめぐる日帝ブルジョアジーと革命的プロレタリアート・農民との階級闘争へ発展させようではありますか。



民の排外主義的統合を焦点とする攻撃が一層強められている。これと真向から対決し、日帝を打倒していく沖縄階級闘争の前進をかちとていくことは、こんにち、ますます重要な任務となっている。

八一年五月、鈴木がうちだした「千カイリ

防衛」は「線や面とは別の概念だ。…有事の際、継戦能力を保持するためにも重要」(夏目防衛局長)と、明確に戦争にむけてのものである。これは海上自衛隊が海から、米空軍が空から共同作戦を展開するものとして想定されている。そして沖縄基地はこの要として

烽火

年七月、第五航空群へと昇格し幕僚機能を強化した。ホワイトビーチの海上自衛隊沖縄基地隊も本年度中に現在の第三五掃海隊を新たに再編し、新型掃海艇二隻を配備する計画である。

一方、米国防総省は八二年十一月三〇日、シーレーン防衛のために空軍が全面支援すると発表した。さらに、十二月八日、緊急展開軍（RDF）を発展的に解消し中東軍総司令部を創設すると発表した。この新たな動きのなかで嘉手納基地の役割は一層拡大する。防衛施設局は十二月三日、「思いやり予算」で嘉手納基地に毎年六基ずつ、計六〇基のF-15用ハードシェルターを建設していくことを明らかにした。在沖米空軍は独自に八二年度からF-15用ソフトシェルター五〇基の建設に

成すが嘉手納基地は世界最強最大の空軍基地になるのである。

この「革新の分裂」は右翼的労戦統一派の実体的登場として、沖縄における労働運動の産報化への道をひらくものであった。

階級的労働運動の 陣型構築に全力を

現下の日本帝国主義の労働運動

攻撃の中心環は、戦争とファシズム準備のために、十二・一四「全民労協」発足を足がかりとし、すべての戦闘的な労働運動と労働組合を、根こそぎ解体しようとするところにある。それは官公労働者にたいする臨調・行政凍結攻撃を内包し、これと軌を一にした歴史的攻撃である。

われわれはこの攻撃にたいし、階級的労働運動の構築、陣型構築をもつて応戦しなければならない。すなわち、帝国主義足下のわれわれ労働者階級は、強化される自国帝国主義の侵略反革命戦争一産報化攻撃とたたかい、社会主義革命の攻勢を準備する階級的労働運動

的陣型をつくりだすことを、みずからの任務とせねばならないのである。

排外主義者や、種々の右翼日和見主義者たちとの非妥協の闘争を基礎にして、大胆に先進的活動家の統一戦線、共闘構築に乗りだし、一翼をになっていく決意である。

すべての戦闘的労働者の皆さん。

この八三年は、日本階級闘争、日本労働運動の勝利の展望をきりひらく、きわめて重大なたたかいの年である。

われわれの持てる一切の力を集中し、日帝の侵略反革命戦争一産報化攻撃の嵐を突き破り、日本階級闘争をみずから之力をもってさらの一歩前進させようではありませんか。

ともに勝利の八三年を進撃しよう。

未組織労働者の組織化に奮闘しよう

本格的な激動の年をむかえようとしています。高楓地域合同労組から全国の労働者のみ

全世界的な危機がさけばれ、戦前の再来か
のようす危険より何より、商業新聞によると、

られぬ日がないといふはどの年が二年でした。労働現場では、数年来にわたる春闘の

いまこそわれわれは、右翼的労戦統一派と対抗し、地域、職場、生産点を貫ねいた共同のたたかう組織が必要だと考へています。

高槻地域合同労組は、結成一年を経て第二歩のたたかいを宣言します。それは、真に未組織労働者のたたかう武器としての組合結成であり、官民を貫ぬいた地域共闘の結成であります。

公共料金の値上げ、福祉切り捨てなど、労働者の生活苦、経済的圧迫はますますたえがたいものとなっています。とりわけ労働組合をもたない未組織労働者にとっては職場における無権利状態、低賃金、不安定雇用という状態をつねにしいられています。このような現状に対する労働者の憤激は大きく高まつて

大阪・高槻地域合同 労働組合

大阪・高槻地域合同 労働組合

民営化——一大合理化の風に反撃せん

全国のたたかう労働者の皆さん。日本帝国主義の戦争とファシズムにむけた攻撃がさらに強まり、安保・改憲・軍拡の動きに一層拍車がかかる八三年。この幕あけをむかえ、電通労政よりたたかう決意を明らかにしていきます。

現在打ちおろされている行革と労戦統一の攻撃は労働者人民への搾取・収奪の強化と排外主義イデオロギーの育成をねらったものであり、さらに、官公労働運動の解体と戦闘的労働者の虐殺を目論むものとしてある。われわれ電通労働者はこうした攻撃の真只中に位置している。第一には第二臨調―民営化攻撃であり、それは電通労働者の大量首切りと情報通信産業の国家的育成・再編のための大合理化を强行せんとするものだ。第二はINS構想を中心とした攻撃であり、電々公社は情報公社への大転換をはからんとしている。このINS構想は、日帝の戦争とファシズム準備の動きと一体のものとしてあり、軍事通信網の完成化にむけ、軍事、産業の両面にわたって、公社は日帝の中枢神経の役割を

日本学生運動の革命的再建かちとれ

八〇年代初頭を通じて、学生と学生運動は新たな流動の中にますます深く投げこまれた。全国的な右翼―ファシスト学生運動の台頭と、移転・廢寮攻撃などをもつての学生支配の強化が進行している。

学生は、ブルジョアジーの手でどこへ連れていかれようとしているのか! 将来、労働者との間で特権的地位を得るために、学生の時代から資本主義的竞争の渦中にたたきこまれ、学卒労働者の中間管理職というエサをぶらさげられて同じ賃金奴隸でありながら仲間を裏切り、労働者支配の道具となること。幻想の余地ないこの客観的事実こそ、まさに資本が学生に期待しているものである。大学は一握りのエリート養成機関ではなくなった。

「将来のプロレタリアート」たる学生の頭上には露骨なブルジョア階級支配の網の目がはりめぐらされている。直面する世界的な帝国主義の危機の時代、学生支配の中心的攻撃は、一層鮮明に、学生を労働者人民の中に打ちこ

まれる支配のクサビへと形成することに定められている。さらなる搾取・収奪にさらされる労働者人民の決起を虐殺し、排外主義の下へねじふせんとする日帝の死活をかけた戦争とファシズム準備の道に、今日の学生支配は直結している。

これといかにたたかうのか! この問い合わせをさけて学生のたたかいの前進は一步もありえない。われわれは呼びかける。学生を階級的自覚に支えられたプロレタリア戦士へ! 学生運動をプロレタリア階級解放の一翼へ! 一こんにちの階級闘争の前進のために全力でたたかい、その中で自己をプロレタリアートとして打ちきたえよ! 全人民的政局闘争の戦場へ、階級的労働運動の苦闘のただ中へ、先進的労働者と手をたずさえて進撃せよ、と。

全国の学園で、学生の決起の場までうばいとり破壊する支配の強化に抗して、様々なたたかいが開始され、継続されている。このたたかいを日本学生運動の革命的再建のための意識的努力と結合させねばならない。そのた

はさんとしている。公社・ブルジョアジー一体となつておしすすめるINS構想とは、二〇年で六〇億という莫大な建設投資を行うが、その資金は一般加入者の料金値上げという形で強制負担させようとしている(それも遠距離通信値下げというペテンでおおいから)。また、情報通信網の確立によって公社はOAや工業用ロボット導入の推進役を果たし、安保・軍拡の一環である地域防災システム、国民総背番号制導入など、労働者総体への大合理化、国家的管理強化をはからんとしている。この実現のために公社はマスクを動員して大宣伝をくりかえすとともに、公社内部へむけた宣伝や民営化への布陣を打ちかためるためにオレンジライン(客の苦情処理・新サービスの宣伝などに全職員をあらせらせる)の設置など企業意識のうえつけも強化されてきている。

こうしたなかで電通民同は、公社制度改革をぶちあげ、第二臨調―民営化の動きに迎合している。公社事業発展のために合理化を推進し、ブルジョアジーとの協調をさけんでいる。

以上のような情勢下で革命的電通労働者の任務はますます重大になつてきている。労働運動の活動と分解の渦中で個々分散させられている先進的電通労働者のたたかいを全国共闘、大衆的統一戦線建設へと前進させよう。日帝の戦争とファシズム準備、これと軌を一にした労働運動の産報化と真正面からたたかう階級的労働運動の構築をたたかいと单産内におしとどめることなく中小未組織労働者のたたかいに支援・連帯し、労働運動全体に責任をもつたたかいへと発展させよう。

電通労政は、たたかう労働者との団結を強化し、共にたたかいぬく決意です。労働運動を社会主義革命の攻勢へと転化させるべく、ともにたたかわん。

電通労働者

政治委員会

京都学生戦線

めに、学生支配と対決し、広範な学生を自覚させ、政治的決起へと導いていくための活動を学園の中に再建することは重要である。右翼日和見主義者の学生運動は、学内改良要求へと学生のたたかいを封じこめ、より広い階級的任務に学生をして就かせることを否定し、大生大衆をねむりこませるものに他ならない。

学園の最深部から、自治会運動をはじめとしたあらゆるたたかいを通じて、学生の第一歩的決起を作り出し、発展させる事業を、彼らの疎りんから奪還しなくてはならない。これぬきに、開始されたブルジョアジーとの学生大衆の争奪戦に勝利することはできないだろう。大学当局―資本による強制された無風状態を大胆に打ち破り、たとえゼロからでもたたかいを組織し、そのたたかいでプロレタリア階級闘争への道すじを指し示すことをもつて、若きプロレタリア戦士の進撃路を敷きつめよ! 総力をあげて日本学生運動の革命的再建をかちとれ!